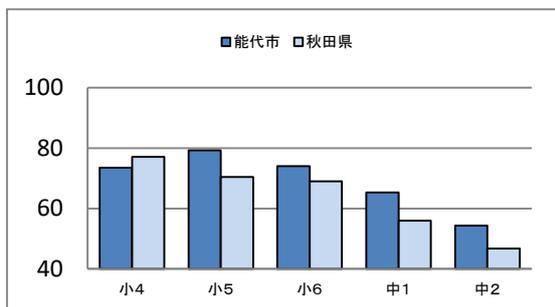


Ⅲ－１ 質問紙調査結果（学習全般について）

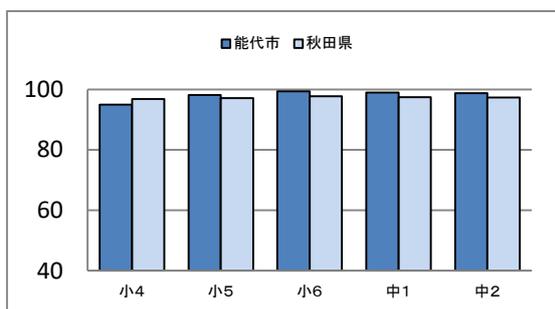
※グラフは、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合を示しています。

① 勉強が好きだ



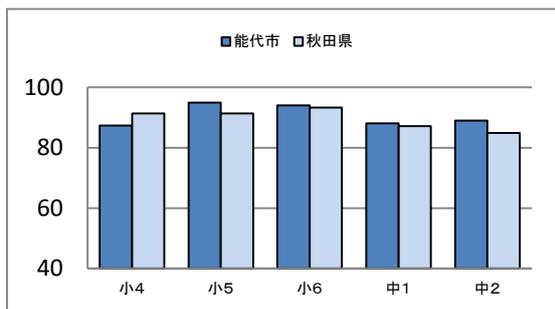
昨年度に比べると各学年とも割合は減少しているものの、小5以上の学年で県平均を5ポイント以上、上回っています。各校では「分かった」「できた」を実感できる授業づくりを進めています。今後も児童生徒の興味・関心を高めながら、勉強好きの児童生徒が増えるよう努めていきます。

② 勉強は大切だ



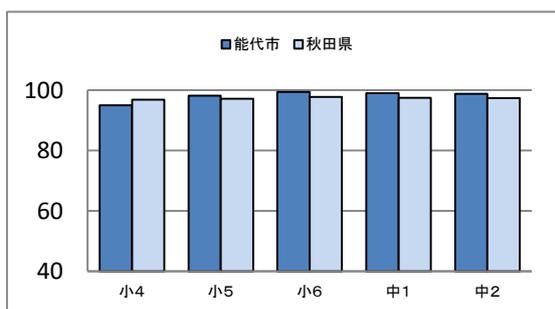
全ての学年で95%以上となっており、昨年度と同等の割合となっています。中学校は100%近い数値です。学習が日常生活につながっていることや、生活に役立っていること等を児童生徒に気付かせ、勉強の大切さを実感させる取組をしていることがうかがえます。

③ 学校の勉強がよくわかる



県平均を下回る学年はあるものの、平均が9割近い数値となっており、おおむね良好です。各学校では、児童生徒一人一人の学習状況を見取りながら、基本的な学力の定着を図っています。また、個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けての授業改善に取り組んでいることもうかがえます。

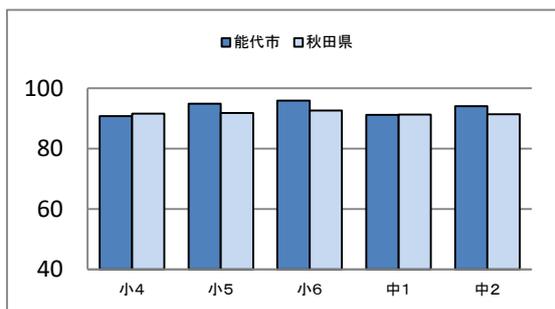
④ ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい



全ての学年で90%以上となっています。各学校では、日常生活や社会の事象と関連させながら学習活動を展開するよう心がけています。児童生徒は、目的をもちながら学習をしているため、基本的な学力の確実な定着につながっていることがうかがえます。

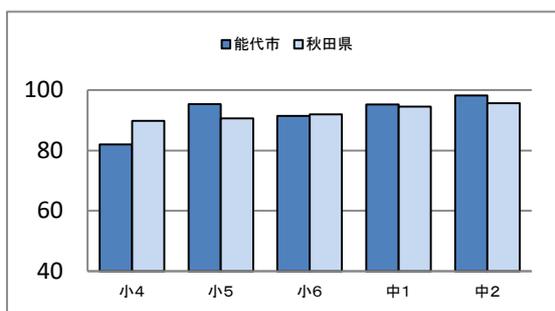
Ⅲ－２ 質問紙調査結果（学校生活について）

① 学校が楽しい



全ての学年で90%以上となっており、昨年度と同等の割合となっています。各学校では、コロナ禍での制約はあるものの、児童生徒に必要な教育活動の見直しを図りながら、学ぶことの楽しさや友達との関わり大切さを味わわせ、日々の教育活動の充実に努めていることがうかがえます。

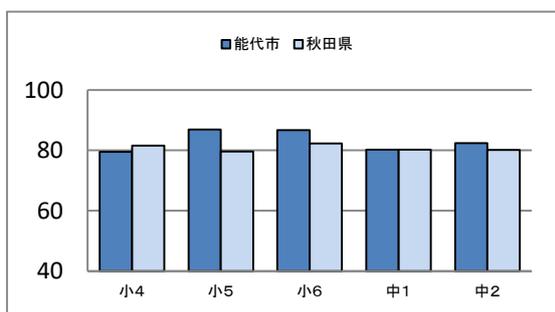
② 学校のきまりを守っている



小5～中2で90%を上回っています。中2・中3の生徒は、昨年度よりも数値が高くなっており、きまりを守ることの意義を理解しながら中学校生活を送っていることがうかがえます。各学校では、学級や児童会・生徒会を中心に、自分たちで主体的にきまりを考える機会が多くなり、規範意識の高まりにつながっています。

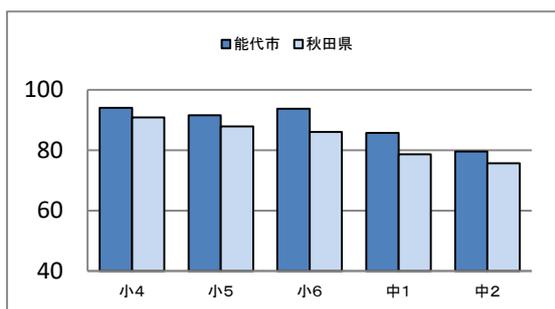
Ⅲ－３ 質問紙調査結果(ふるさと・キャリア教育について)

① 自分にはよいところがあると思う



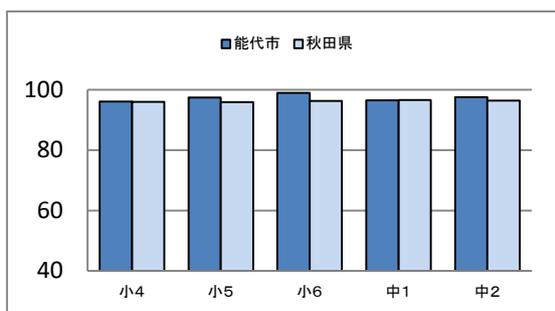
昨年度同様、小5・小6の数値が高くなっています。高学年になり、活躍場面が多くなっていることから自己有用感が高まっていることがうかがえます。各学校では、自己肯定感・有用感を高めるために、周囲に認められる場を設定するなど、児童生徒一人一人のよさを伸ばそうとする取組を行っており、その成果が表れています。

② 将来の夢や目標をもっている



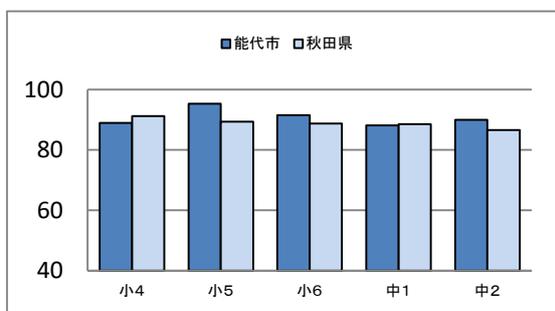
全ての学年で県平均以上となっています。特に、小学校では90%以上となっています。各学校では、年齢や発達の段階を踏まえ、働くことの意義や職業観の醸成、児童生徒一人一人のキャリア発達を適切に支援するために、職場見学や職場体験、ガイダンス等の進路指導を丁寧に行っていることがうかがえます。

③ 人の役に立つ人間になりたいと思う



全ての学年が96%以上となっています。各学校では、人と関わる活動を重視し、他者と協働しながら社会に役立つ行動をしていこうとする児童生徒の育成を目指しています。自分たちの活動が、誰かのためになり、社会貢献につながっているという実感につながっていることがうかがえます。

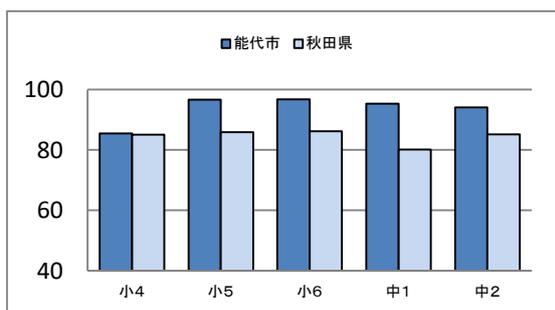
④ 地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う



全ての学年で9割近い数値となっています。各学校では、ふるさと・キャリア教育において、地域を支え、創出していこうとする気概、郷土愛や地域社会の発展に貢献していこうとする児童生徒の育成を目指しています。継続的で特色ある取組が、児童生徒の意欲を高めていることがうかがえます。

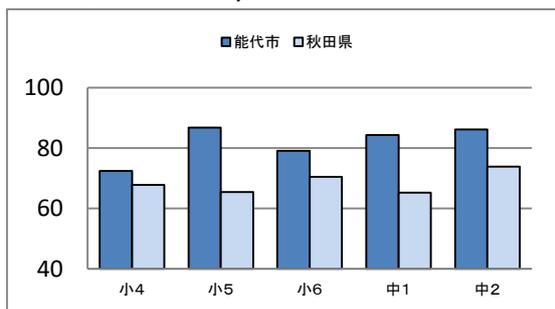
Ⅲ - 4 質問紙調査結果（授業について）

① ふだんの授業では、週に1回以上ICT機器を使用している



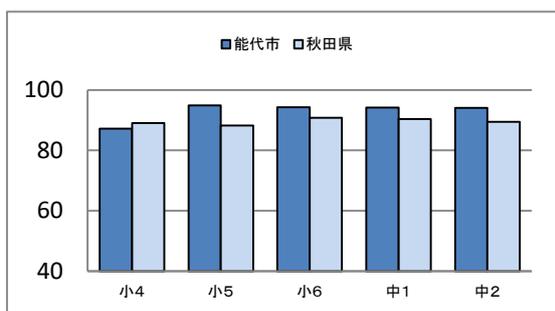
全ての学年で県平均を上回っています。特に、小5～中2では90%以上となっています。タブレット端末導入2年目に入り、各学校では「まず慣れる」段階から「よく使う」段階へと移行してきています。秋田の探究型授業のプロセスをより機能させるための学習ツールとしてICT機器を効果的に使用していることがうかがえます。

② 学校で、週に1回以上ICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している



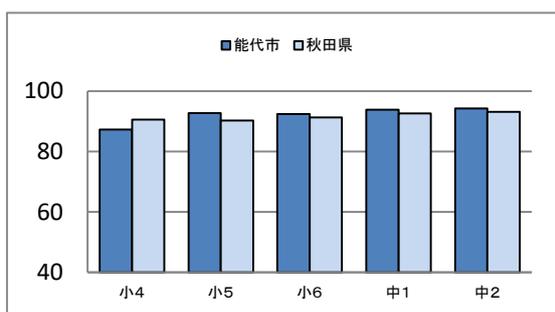
全ての学年で県平均を上回っています。各学校で、探究型の授業においてICT機器を効果的に活用していることがうかがえます。ICT機器の使用により、多様な意見や考えに触れることができ、自分の考えを深めたり広げたりすることにつながっています。

③ ふだんの授業では、授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいると思う



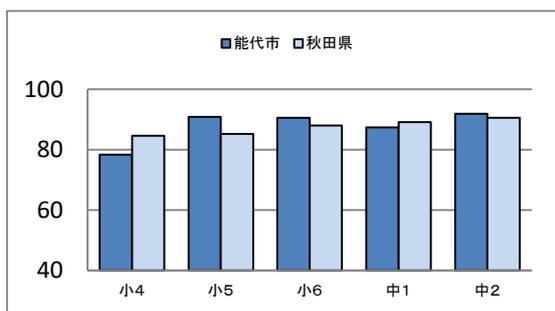
小5以上の学年全てが94%以上で、県平均を上回っています。各学校では、授業の導入部分で児童生徒と対話しながら学習課題を設定するなど、児童生徒が目的をもって主体的に学習に取り組めるようにしています。授業のゴールの姿も明確になり、意欲的な学びにつながっています。

④ ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動に進んで取り組んでいると思う



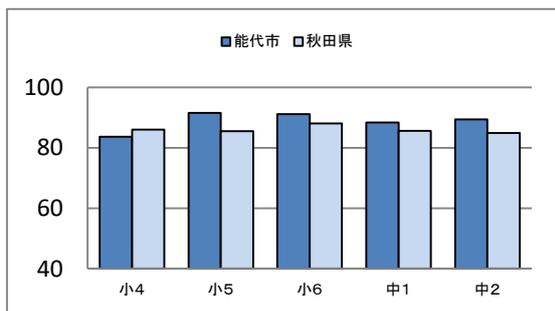
小5以上の学年全てが92%以上で、県平均を上回っています。各学校では、話し合いの目的に応じて、ペアやグループ、学級全体と学習形態を工夫しながら話し合いを行っています。各学校では話し合う場を意図的に設定し、友達と関わりながら学習活動を進めていることがうかがえます。

⑤ ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う



県平均を上回っている学年もありますが、ほとんどの学年で昨年度より数値が下がっています。授業中の話し合いが形式的になり、考えの深まりや広がりにつながらない活動になっていることも考えられます。目的をもった話し合い活動ができるよう、学習活動の見直しを図りながら授業改善に努めます。

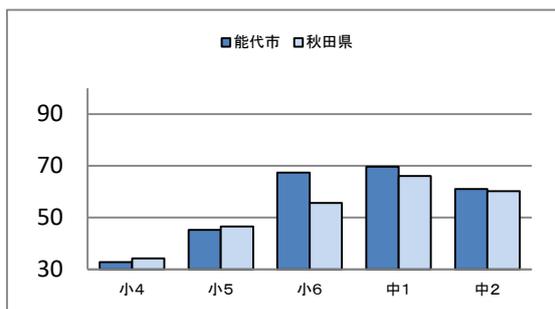
⑥ 授業では、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う



小5以上で県平均を上回っています。各学校では、児童生徒一人一人の学習状況を見取りながら、指導と評価につなげています。教師は、その結果を次の授業づくりに生かしながら、つながりや系統性を意識して、児童生徒主体の授業を展開していることがうかがえます。

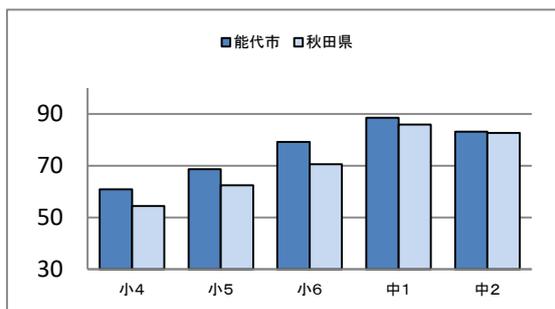
Ⅲ－５ 質問紙調査結果（家庭学習について）

① 学校がある日（平日）、授業以外で1時間以上勉強する



小学校は昨年度、全学年で県平均を上回っていましたが、今年度は2学年で下回りました。中学校は昨年度、中2が県平均を下回りましたが、今年度は全学年で上回っています。昨年度の課題を受けて、中学校で力を入れて改善に取り組んだことがうかがえます。

② 学校がない日（休日）、1時間以上勉強する



昨年度は県平均を下回る学年がありましたが、今年度は全学年で県平均を上回っています。小6は、平日も休日も県平均を10ポイント近く上回っています。児童生徒が、平日にじっくり家庭学習に取り組めない分を、休日に補っていることがうかがえます。